

令和3年度 自己評価書

| | |
|------|-----------------|
| 学校名 | 和歌山市立 伏虎義務教育 学校 |
| 校長氏名 | 十河 秀彰 |
| 作成日 | 令和4年2月14日 |

1 教育目標

心豊かで、自ら学び、夢と希望を持ってたくましく生きる人間の育成

2 本年度の取組についての評価

| | 進んで学び、しっかり考える子供 | 心豊かで、思いやりのある 優しい子供 | 健やかに、たくましく生きる 元気な子供 | 地域とともにある学校 |
|-----------------|---|--|--|--|
| 指標 | 学校評価アンケート ・毎日の勉強がわかる。 ・授業は楽しく分かりやすい。 全国学力学習状況調査 ・課題に自ら取り組むことができる。 ・話し合いを通じて考えを深め広げる。 ・資料や文章、話の組立てを工夫して発表できる。 | 学校評価アンケート ・学校が楽しい。 ・私はそうじを一生懸命している ・誰にでもあいさつができる。 ・私は友達となかよくしている ・相手や場に応じた言葉づかいができる(後期) | 学校評価アンケート ・授業や体験活動で、進路や生き方について考えている(後期) ・学校は、子供の安全確保・健康管理のための取組を行っている。(保護者) ・学校は、将来の進路や職業について適切に指導している。(保護者) | 学校評価アンケート ・学校は、子供の活動の様子を、保護者に分かりやすく伝えている。(保護者) |
| 重点目標 | ・確かな学力の向上 ・言語活動(ことばの力)の充実 ・「わかやま創造科」充実 ・外国語教育の充実 ・理数教育の充実 | ・体験活動の充実 ・道徳教育・人権同和教育の充実 ・自主的・実践的活動の推進 | ・特別支援教育の充実 ・健康安全教育の推進 ・キャリア教育・進路指導の充実 | ・家庭・地域との連携充実 ・地域資源の活用推進 ・地域行事やボランティア活動への参加 |
| 取組の状況 | ・「わかやま創造科」を中心に、教職員全体で授業研究を推進し、児童生徒が探究的に学ぶ力の育成に努めた。 ・GIGAタブレットを活用し、2年生で幼稚園やこども園をつなぐ授業を、5年生では医療従事者をインタビューする授業、6年生ではキーノわかやまにある玉林園さんと商品の企画をそれぞれオンラインでつないだ。 ・8年生では、「わかやまの職業に学ぶ」という単元で、栽培漁業や卸売市場で流通を学び、和歌山の強みと弱みを比較しながら、和歌山をよりよくするための提言を各学級でまとめた。 | ・儀式的行事や体験活動が制限を受ける中、何が出来るかを教職員で共有し、取り組んだ。 ・運動会では、学年の枠を超え交流が行われた。終わった後も、学年行事での交流が続いている。 ・学習発表会で、7年生は心を合わせた群読(おまつり、雨二モマケズ)の発表を披露した。 ・図書館を充実させ、読書に親しみやすい空間にした。また、「わかやま創造科」の成果物を紹介の場を設け、児童生徒で共有できるようにした。 ・全校一斉の朝掃除を行った。 ・5年生以上の全児童生徒が参加する委員会活動を行った。 | ・支援や配慮の必要な子供について、基礎資料を活用し、支援方法について教職員間の情報共有を進めた。 ・保健室だよりの発行、保健委員会活動を通じて、健康についての意識向上に取り組んだ。 ・「食」に関わる掲示や通信で、健康についての意識を高めた。 ・職場体験は残念ながらできなかったが、「わかやまキャリアガイダンス」「ライフプランニング」(8年)を開催し、様々な職業人からお話を伺った。 | ・伏虎通信を毎月地域に配布させていただいた。HPを通じて学校の情報を発信した。 ・昨年度から学校図書館ボランティアの方々が定期的に来校してくださるので、常時開放が可能となり、書架が整頓され、季節のディスプレイが飾られるようになった。子供たちは楽しみながら読書に親しんでいる。 ・6月末の校庭の芝生植え付けには、多くの保護者や地域の方々に参加していただいた。また、メンテナンス作業にも定期的に参加していただいたおかげで、子供たちの怪我の減少につながり、緑の校庭での運動会が実現した。 |
| 取組の成果と課題 | ・毎日の勉強がわかる。(前期低92% 中94%高91%)、授業は楽しく分かりやすい。(後期生徒84%) ・課題に自ら取り組むことができる。(6年77% 9年82%) ・資料や文章、話の組立てを工夫して発表できる。(6年59%、9年53%) ・話し合いを通じて考えを深め広げる。(6年78% 9年76%) 言語活動をさらに充実させ、思考力や判断力、表現力の伸長を図りたい。 | ・学校が楽しい。(前期低94%中93%高91%後期92%) ・私はそうじを一生懸命している。(前期低94%中91%高91%後期90%) ・誰にでもあいさつができる。(前期低90%中92%高79%後期85%) 「時を守り、場を清め、礼を正す」の意義を理解し、主体的に取り組む姿勢を継続して養う必要がある。 相手や場に応じた言葉づかいができる(後期96%) | ・授業や体験活動で、進路や生き方について考えている(後期82%) 4月の質問では「夢や目標がある」に対して、54%だった。 ・学校は、子供の安全確保・健康管理のための取組を行っている。(86%)であった。地震や火災時の避難訓練、不審者対応訓練を実施し、災害等への備えを図った。 ・学校は、将来の進路や職業について適切に指導している。(39%) 前後期全体の集計になったため、「わからない」が47%あった。後期課程の生徒・保護者の集計を指標としたい。 | ・学校は、子供の活動の様子を、保護者に分かりやすく伝えている。(77%)で昨年とほぼ同数。 ・HPの更新を定期的に行ったが、内容の充実を図らなければならない。 ・今年度も校区の商店や地域人材の協力を得ることができ、子供たちの体験的な学習に寄与していただいた。これからも引き続き広く協力をお願いしていく必要がある。 |
| 改善方法 | ・「わかやま創造科」を中心に教職員全体の授業研究を推進し、児童生徒が探究的に学ぶ力を育成する。 ・学校図書の実用性をさらに高め、子供達が集う魅力ある学校図書館づくりに学校全体で取り組む。 ・協働的に学ぶ力を高めるためにペア学習やグループ学習で、多様な考えを理解したり、発信したりできる力を育てる。 | ・9年間を見通した体験活動ができるように、特別活動の年間計画を見直す。 ・清掃活動について考える学級会や集会を行い、主体的に清掃に取り組む姿勢を高める。 ・「特別の教科道徳」の充実に学校全体で取り組み、豊かな心を持った子供を育成する。 ・児童生徒会を中心に、あいさつ運動をスマイル活動と位置づけにさらに取り組む。 | ・SCやSSW、関係機関と連携したケース会議を定期的開催し、指導方針の共有、個別支援の充実に努める。 ・給食を通じて、食育に対する意識をさらに高める。 ・キャリア教育の取り組みを、学年便りやHPを通じて情報発信する。 | ・学校の情報がより広く伝わるように、HPの充実に努める。 ・コミュニティスクールと連携し、学校と地域人材や地域資源をつなぎ、子供たちの学習の幅を広げたい。 |

3 その他の課題

第Ⅰ期(1年~4年)第Ⅱ期(5年~7年)第Ⅲ期(8年9年)の各ステージの活動をより際立たせ、清掃など縦割りの活動を仕組んでいきたい。令和4年度からの小学校高学年教科担任制に対応し、本校の一部教科担任制をさらに進めるために、前期後期の教員の交流をさらに進めていく。